

賃金構造基本統計調査
推計方法

ア 推計方法

母集団の事業所数に対する有効回答事業所数の割合の逆数を「事業所復元倍率」としている。また、雇用形態（正社員・正職員、正社員・正職員以外、臨時労働者）別に、事業所の労働者数に対する抽出された労働者数の割合の逆数を「労働者復元倍率」としている。

各労働者について、属する事業所の事業所復元倍率と、属する事業所における該当する雇用形態の労働者復元倍率との積を「復元倍率」として、推計を行っている。

推計値の算出式は以下のとおり。

以下において「標本事業所」及び「標本労働者」とは、標本として抽出された客体のうち、有効回答として認識されたものを指す。

(ア) 月間平均賃金等 1 か月当たり平均値及び年間賞与その他特別給与額の 1 年当たり平均値（以下併せて「賃金等の平均値」という。）は、次の式により推計している。

$$\bar{x} = \frac{\sum_{i=1}^m \sum_{j=1}^{n_i} w_{i,j} \cdot x_{i,j}}{\sum_{i=1}^m \sum_{j=1}^{n_i} w_{i,j}}$$

$$w_{i,j} = u_i \cdot v_{i,j}$$

\bar{x} : 賃金等の平均値

i : i 番目の標本事業所を表す添字

j : j 番目の標本労働者を表す添字

m : 推計する区分に対応する標本事業所数

n_i : i 番目の標本事業所の推計する区分に対応する標本労働者数

$x_{i,j}$: i 番目の標本事業所の j 番目の標本労働者の賃金等

$w_{i,j}$: i 番目の標本事業所の j 番目の標本労働者の復元倍率

u_i : i 番目の標本事業所の事業所復元倍率

$v_{i,j}$: i 番目の標本事業所の j 番目の標本労働者の労働者復元倍率

(i 番目の標本事業所における値は、当該労働者の雇用形態に応じて、正社員・正職員、正社員・正職員以外、臨時労働者に対応する 3 種類の値のいずれかとなる)

(イ) 1 時間当たりの平均賃金及び 1 日当たりの平均所定内実労働時間数は、次の式により推計

している。

$$\bar{x} = \frac{\sum_{i=1}^m \sum_{j=1}^{n_i} w_{i,j} \cdot \frac{x_{i,j}}{t_{i,j}}}{\sum_{i=1}^m \sum_{j=1}^{n_i} w_{i,j}}$$

$$w_{i,j} = u_i \cdot v_{i,j}$$

\bar{x} : 賃金又は労働時間の平均値

i : i 番目の標本事業所を表す添字

j : j 番目の標本労働者を表す添字

m : 推計する区分に対応する標本事業所数

n_i : i 番目の標本事業所の推計する区分に対応する標本労働者数

$x_{i,j}$: i 番目の標本事業所の j 番目の標本労働者の賃金又は所定内実労働時間数

$t_{i,j}$: i 番目の標本事業所の j 番目の標本労働者の所定内実労働時間数又は実労働日数

$w_{i,j}$: i 番目の標本事業所の j 番目の標本労働者の復元倍率

u_i : i 番目の標本事業所の事業所復元倍率

$v_{i,j}$: i 番目の標本事業所の j 番目の標本労働者の労働者復元倍率

(i 番目の標本事業所における値は、当該労働者の雇用形態に応じて、正社員・正職員、正社員・正職員以外、臨時労働者に対応する 3 種類の値のいずれかとなる)

(イ) 分位数の推計は、賃金額の階級ごとの労働者数を集計し、次の式により行っている。

$$D = a_{i_0} + \frac{\alpha L - \sum_{i=1}^{i_0-1} L_i}{L_{i_0}} (a_{i_0+1} - a_{i_0})$$

$$L = \sum_{i=1}^b L_i$$

D : 分位数

a_i : 下から i 番目の階級の下限値

L_i : 下から i 番目の階級の推計労働者数

b : 階級数

L : 推計労働者数

ただし、 i_0 は

$$\sum_{i=1}^{i_0} L_i \geq \alpha L$$

を満たす最小の階級とする。
なお、各分位数に対応する α は以下のとおり。

第1・十分位数：1/10

第1・四分位数：1/4

中位数：1/2

第3・四分位数：3/4

第9・十分位数：9/10

また、階級の間隔は、一般労働者の集計については1万円間隔、一般労働者のうち新規学卒者の集計については2,500円間隔、短時間労働者と臨時労働者の集計については700円までは50円、700円以上900円までは20円、900円以上1,200円までは50円、1,200円以上1,600円までは100円、1,600円以上2,400円までは200円、2,400円以上3,000円までは600円、3,000円以上は1,000円間隔としている。

(エ) 労働者数は、次の式により推計している。

$$L = \sum_{i=1}^m \sum_{j=1}^{n_i} w_{i,j}$$

L : 推計する区分に対応する推計労働者数

m : 推計する区分に対応する標本事業所数

$w_{i,j}$: i 番目の標本事業所の j 番目の標本労働者の復元倍率

n_i : i 番目の標本事業所の推計する区分に対応する標本労働者数